

第1回新塩尻市立平出博物館基本構想検討委員会議事概要

- (1) 日時：令和2年12月22日（火）午後2時～4時
- (2) 場所：塩尻市立平出博物館・学習室
- (3) 出席者：委員12名（全委員）、教育長、事務局
- (4) 議事内容
 - ① 委嘱書交付
 - ② 教育長あいさつ
 - ③ 自己紹介
 - ④ 委員長、副委員長の選出
委員長に笹本正治氏（長野県立歴史館長）、副委員長に青柳直良氏（塩尻市文化財保護審議会会長）が選出された。
 - ⑤ 委員会検討事項の説明と承諾
教育長から笹本委員長へ、新塩尻市立平出博物館基本構想（仮称）の策定に関わる提言を求める書面が渡され受理された。
新塩尻市立平出博物館基本構想（仮称）の策定に関する提言について、委員会検討事項の主旨や検討項目について事務局から説明。
「博物館を通じて地域の文化を創る視点とその気概をもって検討する。これは基本的な事業活動にかかわる事項である。」ことが確認された。
 - ⑥ 市内博物館施設の状況について
事務局より、市内各施設等の説明があり、委員からは「各施設の経過を踏まえ、博物館がどういった役割を担い、地域社会で存在していくかが課題である。建物を作ればいいというものではない。」との指摘があった。
 - ⑦ 文化財保存活用地域計画について
事務局より、制度等の説明があった。また、自然博物館の概要や移転計画案についても説明を行った。
意見等として「資料を次の時代に伝える「保存と活用」という収蔵スペースを含めての相反する課題への対応が課題であり、保護とともにどう活用していくが重要」との指摘があった。
 - ⑧ 平出博物館関連施設の見学
博物館施設（平出博物館施設、附属施設（記念館、整理室）平出遺跡公園ガイダンス棟の施設見学を実施。

【主な意見等】

- ・施設の見学から課題が見えた。克服するのに、（建物）を単に作ればよいというものでなく、どのように市民の心に伝えるのか、市民にとって必要な博物館にするにはどうすればよいのかが重要である。
- ・土器がどのように使われていたかなどの見せ方、展示方法の工夫が必要である。
- ・次世代を担う子どもたちのことを考えることが大切である。

- ・市域をどのように捉え、なにを訴え示すのか。限られた条件の中で提案することが（委員会に）求められる。そぎ落とす作業が問題である。市民が、塩尻に生まれてよかった、塩尻の歴史がわかるものを選択提案することとなる。
- ・限られた施設面積の中で、収蔵、展示部門の面積を設定していくこととなる。利用可能な既設施設の活用も検討される。デザイン重視なのか、効率的な利活用なのかなど、今後の施設の方向性についても考えていくこととなる。
- ・塩尻らしさを示すうえで、何を展示するかが課題である。知恵を出し、その提案が求められる。
- ・塩尻の未来のための博物館をつくるのだから、何を意図していくのか、市民が、生まれてよかった、歴史がわかるものをつくっていかなければならない。
- ・施設単位でなく、野外展示（遺跡公園）や自然環境など周辺エリアを含めて全体的なスペースに、来訪者がこのエリアを歩く動線の視点で考えることが大切である。
- ・自然博の廃校利用のリノベーションは、利用面やコスト面の課題があるのではないか。
- ・展示等の対象物により施設の在り方が変わる。
- ・子どもを対象にすることを含め、遺跡などについて話をしながら伝え学ぶことが大切である。公園エリアの空間をどのように活用していくかを考えることが必要である。
- ・子どもを含めて、なぜ多くの市民が訪れることがないのかを考えることが必要である。
- ・博物館は（歴史など）わかる人を対象にしている。圧倒的に見に来ない人々がいることの現状から考えていくことが求められる。
- ・女性を対象に考える。市民の視点から見た時の博物館の在り方を考えることが重要である。
- ・博物館の魂である博物館を担う人づくりが重要である。
- ・子どもたちを中心に関心を高めるために、（土器の）修復作業を見たり体験できることは重要である。